

平成28年度 鶴岡市総合教育会議 議事録

日時 平成28年12月19日(月)

場所 市役所・庁議室

出席構成員 市長 榎本 政規
教育長 加藤 忍
教育委員 田中 芳昭
教育委員 佐竹美津子
教育委員 毛呂 光一
教育委員 佐藤 清美
出席職員 総務部長 川畑 仁
傍聴人 3人

進行 教育部長 小細澤 充
議事説明職員 学校教育課長 中野 洋
指導主幹 加藤 弘人
事務局職員 参事兼管理課長 石塚 健
管理課庶務係長 五十嵐 広樹

開会(午前10時30分)

教育部長 ただいまから、平成28年度鶴岡市総合教育会議を始めさせていただきます。
はじめに市長よりごあいさつをお願いします。

市長 (あいさつ)

教育部長 次に教育委員会を代表して加藤教育長からあいさつをお願いします。

教育長 (あいさつ)

教育部長 それでは早速ですが協議に入らせていただきます。今回は、3項目挙げさせていただきました。はじめに(1)英語教育の推進について、教育長から説明させていただきます。

教育長 これについては、小中高大連携のモデル事業が2年目を迎え、今後モデル指定が解けても取り組んでいきたいと考えています。またALTの活用も研究し、英語に対して親しむ機会を増やそうと考えています。さらには東北公益大学や山形大学農学部の学生の力も借りることができないかとも考えており、全市での英語教育を充実させたいです。

毛呂委員 身近な小学校5、6年生を見て思うのですが、ここ1年くらいで、外国人と話すとき、どんどん前に出て、知ってる英語を使っていると感じています。これもモデル事業の成果だと思いますが、ちょっとずつ変わってきています。今後、英会話が普通にできるようになっていくことが楽しみです。

教育長 市としては、そういう場を提供してあげたいと思っています。

教育部長 ご質問やご指導など、市長からお願いします。

市長 地元のこともよく知らないのに、英語教育に力を入れても意味があるのかという人がい

ますが、地元への愛着を持つのは当たり前の前提として、英語教育を考えています。

英語教育は、柔軟な発想を持っているうちに学んでほしいし、外国に行ったときに、自分の殻を破って積極的に前に出る子を育ててほしいと思っています。よろしくお願ひします。

教育部長 補足等がありますか。

学校教育課長 ありません。

教育部長 他にご意見ありますか。

市長 外国人と会話が出来たらおもしろいなと思ってもらえる子を作りたいと思います。

教育部長 外国とのふれあいの場も増やす方向で進めていきたいと思っています。それでは次の協議題に移らせてもらいます。(2) 帰国・外国人児童生徒への教育について、教育長から説明申し上げます。

教育長 該当児童生徒は鶴岡に8人います。うち支援が必要な子は3人で、支援員を派遣して対応しています。国籍はどうであれ、学習環境を整えるのが教育委員会の努めだと考えています。

東京に国際学級がひとつあります。そのレベルのものを整備するかは未定ですが、来年度視察に行く予定です。

国の制度もありますが、市で英語の堪能なスタッフの雇用を検討したいです。

教育部長 市長からお願いします。

市長 帰国・外国人児童生徒がどれだけ増えるかは想定できませんが、将来的に鶴岡市としても考えなければならない喫緊の課題です。母国に帰ったときに、また母国語に戻るのに、日本語でなく英語での教育が必要です。教育委員会とすり合わせをしっかりとやらなければと考えています。

一番は、インターナショナルスクールを作ってくれる人がいればいいのですが、なかなかいないので、教育委員会でどこかの学校内でモデル的に検討していただきたいし、連携を取りながら進めていきたいと考えています。

教育部長 教育委員から意見はありますか。

教育委員 ありません。

教育部長 事務局から補足あればお願いします。

学校教育課長 外国の子の対応策は、鶴岡の子どもにとっての、多文化共生、国際理解を進める意味あひも含めて計画中です。

教育部長 この件については、モデル的に進めたいと思います。ご配慮方よろしくお願ひします。次の議題である、(3) 学校教育活動への人的支援について、教育委員会から説明をお願いします。

教育長 学校教育法施行規則が改正され、保護者の意見を尊重するようになると変わってきました。そのことから、特別支援学級と判断されても普通学級に在籍する場合もあり、授業中隣の子にちょっかいを出したりと、個々のニーズに合った指導を行うことが難しいケースが増えてきています。

本市の特別支援教育は、特別支援教育講座の受講生が増えてきていたり、山形大学の専

門家チームが全校巡回相談を行うなど、全国に誇れるものだと思っています。国県の加配が少ない上に、課題を抱える子どもは増えてきており、支援員の充実によって、共に学習できる環境を作るため、3種類の支援員ともに充実させてほしいと思います。

教育部長 特別支援教育は、鶴岡の大きな特色となってもいますし、お願いごとにもなりますが、市長からお願いします。

市長 県立こころの医療センターの職員から聞いたところによると、小さいうちから対応していれば、その子の能力を引き出せるそうですが、保育園・幼稚園、子育て推進課、健康課の人から聞くと、保護者がなかなか判定を受けたがらないそうです。

鶴岡のある企業では、大学の教育学部・医学部と一緒に、ビデオプログラムを開発したそうです。それは、何が書いてあるかを見てもらうものですが、正常な人には見えないものだそうです。これを導入すれば、保護者としても安心でき、市としても有効な判断材料の一つにできるのではないのでしょうか。

今後とも情報収集しながら取り組んでいきたいと思います。予算については、財政でしっかり査定してるでしょうし、教育委員会でもしっかり要求してほしいと思います。

教育部長 本市では巡回相談を細やかにやっているのでも、その分支援の必要な子の発見も多いでしょうし、その後の対応も大切になってきます。

市長 ずるずると普通に高校までを卒業し、社会に出ると受け入れの問題が生じますので、早めに手を打たないといけないと思います。

教育長 その点、中高一貫校では周囲の理解が進んでいるそうです。

教育部長 支援が必要な人には、小さいうちから、連携し一貫した対応が必要であり、親にも理解してもらいながら進めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

佐竹委員 昔よりも、支援の必要な子は増えていると感じます。先生の立場からすると、負担が大きくなるし、気も使うと思いますので、先生を支える人材を減らさず、普通に授業ができるように、加配してほしいと思います。

教育部長 (4) その他といたしまして、どなたか何かありますか。

全員 ありません。

教育部長 みなさまから何も無ければ、これで平成28年度鶴岡市総合教育会議を終了させていただきます。

閉会(午前11時10分)